



学校だより

～ 特別号 ～

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果 京都市立明徳小学校

令和8年9月29日
京都市立明徳小学校
校長 吉岡 健一郎
TEL:075-701-0111
FAX:075-701-0112

今年4月23日に、に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校6年生の結果がまとまりました。本調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語科・算数科）

本校においては、2教科とも平均正答率で全国平均を上回りました。国語科の平均正答率は、本校70.8%で、京都府を6.9pt、全国を10.0pt上回っています。算数科の平均正答率は、本校62.5%で、京都府を4.4pt、全国を6.3pt上回っています。問題形式でみると、2教科ともに、選択式・短答式・記述式のいずれの正答率も全国及び京都府の平均を上回っています。全国的に正答率の低い記述式の設問においても、全国平均を国語科で12.1pt、算数科で13.2pt上回りました。加えて無回答率は低いことから、本校がこれまで重点をおいて取り組んできた自分の思いや考えを表現する力がついてきていると捉えています。

国語科より

国語科では、内容（１）「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び内容（２）「情報の扱い方に関する事項」とともに全国平均・京都府平均を上回りました。特に、内容（１）に関する設問の正答率は、全国より14.7pt、京都府より11.1ptも高い結果となりました。また、観点別に見ても、「知識・技能」を問う設問についての正答率が、全国より12.1pt、京都府より9.1pt上回る結果となりました。このことから、多くの児童に国語科における基本的な学力がついていると言えます。

一方で設問別に見てみると、大問2（一）において正答率が全国を4.5pt、京都府を5.7pt下回る結果となりました。この設問は、「夏を快適に過ごすための工夫について報告する文章を書く」という大問の中で、文章全体の構成や展開を考える問題です。今回の結果から、文章全体の「始め・中・終わり」だけでなく、中のつながりや配列を捉える練習が必要だと考えました。国語科の授業及び、他教科等の授業においても文章を読み取ったり書いたりする際の指導に生かしていきたいと考えています。

算数科より

算数科では、学習指導要領の「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「C 変化と関係」「D データの活用」の全ての領域で、全国及び京都府平均を上回りました。特に「D データの活用」の設問では、全国平均より10.8pt、京都府平均より8.8pt高い結果となりました。問題形式別（選択式・短答式・記述式）に見ると、特に記述式設問において、全国より13.2pt、京都府より10.8ptと大きく上回る結果となりました。本校では、「自ら学び、深めるための対話力」の育成に力を入れており、各教科等において対話的に学びを深める活動を中心に据えた授業を行っています。日ごろから考えたことを具体的な言葉に置き換えて表現する力を培ってきたことが今回の結果にも反映されていると考えられます。

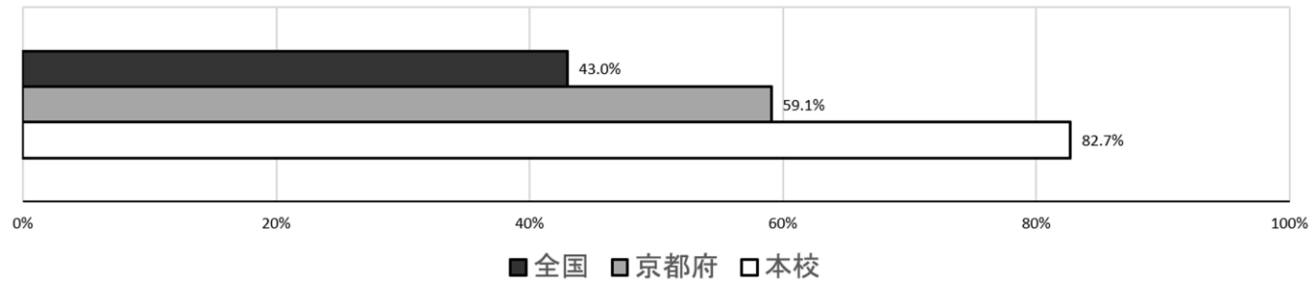
一方で算数科においては、基本的な知識・技能を問う設問についてやや課題が見られました。今後も朝学習の時間などを用いて基礎・基本の定着を図るとともに、ミライシードなどのデジタルツールを用いた家庭学習習慣の定着を進めて行きたいと思えます。ご協力をお願いいたします。

※令和8年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料については
こちらの二次元コードからご覧いただくことができます。



児童質問紙調査から

Q 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



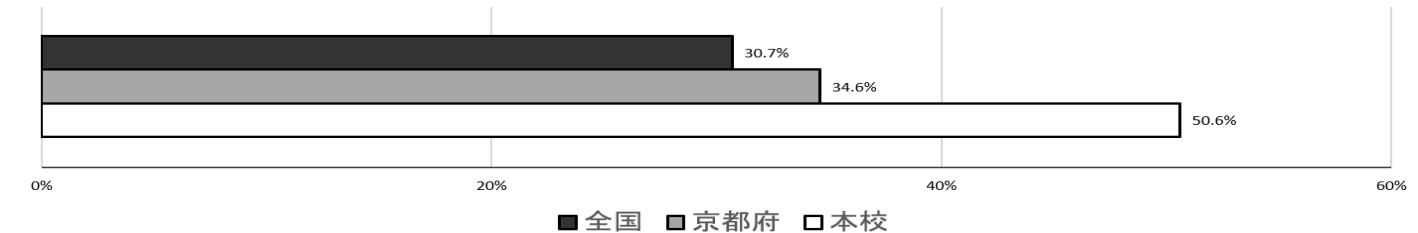
「ほぼ毎日」と回答をした児童の割合が京都府や全国を大きく上回りました。このように本校では、一人一台のタブレット端末を積極的に活用した学習が実践できています。高学年では、ほぼ毎日複数の授業でタブレット端末を使用しています。昨年度から端末がiPadに変わり、さらに活用の拡充が図られるようになりました。しかしながら、使用頻度に比例して、タブレット端末の故障や適切ではない使用に対する指導も増えているのが現状です。ICT機器の正しい使用への理解やネットリテラシーの向上が急がれます。本校では、9月9日11時より家庭教育学級「情報モラル講座」を開催いたしました。児童向けに情報モラル教室も実施しています。ご家庭でもぜひ話題にしてください。

Q 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



「よくある」「ときどきある」と肯定的な回答をした児童が95.4%と非常に多く、全国や京都府を上回りました。ほとんどの児童が、家庭や学校など様々な場面で幸福感を得られていることがわかります。学校教育の中でも、児童の自己肯定感や自己有用感が高まる指導を心がけています。特にスポーツフェスタや学習発表会といった行事では、全体の見栄えよりも、児童一人一人が自分なりの達成感を味わえるように、構成や練習の仕方を工夫しています。いつも子どもたちが家庭や地域で温かく見守られ、健やかに成長していることに感謝いたします。今後も学校と家庭、地域がつながり、子どもたちの温かい居場所となりますようよろしくお願いいたします。

Q あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）



グラフに示しているのは、「101冊以上」と回答した児童の割合で、全国や京都府を大きく上回っています。特に多かったのは、「101冊～200冊」と回答した児童で32.2%でした。また、「501冊以上」と回答した児童も4.6%いました。家庭で豊かな読書習慣が育まれていることがわかります。文科省の報告によると、「読書は好き」「読書は役に立つ」と考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られますが、全国的に「読書が好き」と回答する児童生徒は減少傾向にあるそうです。本校では保護者や地域の皆様のご協力を得ながら、児童の読書習慣がさらに豊かなものとなるよう努めてまいりたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習の状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりするためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりやご指導、ご支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。